

魚とり（下町町）

夏になると、「流れへ行って遊んでござさ。」
と言つて、下町町の南はずれの大川は、泳いだり
魚とりをする子でにぎわいました。

ぼう（僕）も、あつち（わたし）も、高い木の
橋の上から飛んでは泳ぎ、飛んでは泳ぎ、うよう
よいる魚と一緒に泳ぎました。

じゃこめ（雑魚）を取るのも楽しみでした。じ
やこめを取るのに男の子も女の子もみんなで八番
線（太い針金）のヤス造りに夢中でした。三本の
八番線の先を金槌でたたいてつぶしてから、先を
とがらせるために、石の橋の上で力一ぱい押し
ひり引いたりして、ぴかぴかになるまで研ぎました。
中の一本は真すぐに、両端の二本は曲げました。
次に、近くの竹藪から八番線の入る太さの竹を見
つけてきて、その先に研いだ三本の針金をさし込

んで動かないように小石や木切れを打ち込むとヤ
スが出来上り。泳ぎの上手な子供達は、ヤスの先
で泳いでいるじゃこめを突いて捕りました。また、
家から一本しかない日本手拭いを持ち出した子供
達は、二人一組になつて手拭いの両端を持ち、静
かに静かにうるた（魚の住む土手の下の暗い穴）
の所を、

「シート。シート。」
と、おだてながらうるたから出てくる魚をすくい
上げて捕りました。

家に帰るとお父さんやお母さんから
「また、大事な手拭いをつこつた。」
と、いつも叱られました。

又、金網のしようけ（箕）でじゃこめをすくつ
た子もいましたが、魚がうようよいたので沢山捕
れました。

昔は、水中メガネがなかったので、トラホーム
や、結膜炎にかかる子が多く、

「また、川で泳いだね。」
と^い言^って、先生^{せんせい}によく叱^{しか}られました。

